

事項	放牧育成した黒毛和種肥育素牛の肥育性		
ねらい	放牧育成した黒毛和種肥育素牛は、発育が劣っていること等、肥育特性が不明な理由から、子牛市場の評価が低い要因の一つになっている。そこで、放牧育成肥育素牛の市場評価の向上を図るため、放牧育成肥育素牛と全期間舎飼い育成の肥育素牛の肥育性を検討したので、参考に供する。		
指導 参考 内容	<p>1 肥育素牛の育成法 肥育素牛の育成方法は、放牧または舎飼いを問わず、良質粗飼料主体の飼料給与とする。放牧は、母子放牧とし、放牧時に別飼い飼料として子牛に体重比1%の濃厚飼料を給与（舎飼い並みの増体を確保）する。</p> <p>2 肥育期の増体 長期放牧（6か月齢時退牧）及び短期放牧（4か月齢時退牧）育成中に別飼い飼料を給与し、その後に舎飼い育成した肥育素牛については、肥育期の給与飼料への移行も順調であり、全期間舎飼い育成の肥育素牛と同等の増体が得られる。</p> <p>3 枝肉成績 長期及び短期放牧育成肥育素牛の肥育成績は、肉量及び肉質とも良好であり、全期間舎飼い育成肥育素牛と差が認められない。</p>		
期待される効果	<p>1 肥育経営者は、子牛市場から放牧育成肥育素牛を安心して導入できる。</p> <p>2 放牧育成肥育素牛の市場評価が向上し、繁殖経営者は低コストで子牛生産ができ、所得の向上につながる。</p> <p>3 放牧の利用によって、公共牧場の経営が改善される。</p>		
利用上の注意事項			
担当	青森県畜産試験場 家畜部	対象地域	県下全域
発表文献等	青森県畜産試験場報告 第19号		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 増体及び枝肉成績 (試験1)

(平成11~13年 青森畜試)

区 分	性別 頭数	体 重		肥 育 日 数	終了時 日 齢	肥育時 D G	枝肉量 (冷)	ローズ 芯面積
		開始時	終了時					
長期放牧 育成区	去3	280.3kg	734.0kg	567.3日	867.0日	0.80kg	470.3kg	52.7cm ²
	雌3	304.3	675.6	607.0	913.0	0.61	433.0	52.7
舎飼い 育成区	去2	320.5	793.5	614.5	926.5	0.77	500.5	54.0
	雌3	268.0	701.7	659.3	957.0	0.66	494.0	59.0

区 分	性別 頭数	バラの 厚 さ	皮下脂 肪厚さ	BMS No.	BCS No.	肉 の 光 沢	締まり き め	脂肪の 光沢質	枝 肉 等 級
長期放牧 育成区	去3	8.3cm	3.0cm	8.0	4.0	4.7	4.7	5.0	A-4.7
	雌3	8.6	3.0	5.7	4.0	4.0	3.7	5.0	A-3.7
舎飼い 育成区	去2	8.4	3.1	8.0	3.5	4.5	4.5	5.0	A-4.5
	雌3	8.6	2.7	6.0	3.7	4.0	4.0	5.0	A-3.7

表2 増体及び枝肉成績 (試験2)

(平成12~14年 青森畜試)

区 分	性別 頭数	体 重		肥 育 日 数	終了時 日 齢	肥育時 D G	枝肉量 (冷)	ローズ 芯面積
		開始時	終了時					
長期放牧 育成区	去3	317.0kg	794.1kg	558.0日	874.3日	0.86kg	500.3kg	64.7cm ²
	雌3	274.0	656.3	560.0	854.0	0.68	420.0	54.0
短期放牧 育成区	去3	305.0	755.4	556.0	869.0	0.81	481.0	56.3
	雌3	280.7	667.7	555.3	854.3	0.70	427.3	56.0

区 分	性別 頭数	バラの 厚 さ	皮下脂 肪厚さ	BMS No.	BCS No.	肉 の 光 沢	締まり き め	脂肪の 光沢質	枝 肉 等 級
長期放牧 育成区	去3	8.8cm	2.5cm	8.7	4.3	4.7	4.7	5.0	A-4.7
	雌3	8.1	2.9	4.3	4.0	3.3	3.3	4.7	A-3.3
短期放牧 育成区	去3	8.3	2.9	8.0	3.3	5.0	5.0	5.0	A-4.7
	雌3	8.5	2.9	5.0	4.0	3.3	3.3	4.7	A-3.3